

沖縄からの平和アピール

本日 6 月 23 日、沖縄は「慰霊の日」を迎えた。

78 年前、沖縄では、3 ヶ月にわたり国内最大の地上戦が続いた。凄まじく降り注がれた爆弾、嵐の如く吹き荒ぶ砲撃により、約 20 万人もの尊い命が奪われ、自然豊かなこの地を無残な焦土へと変えた。

沖縄戦で犠牲となられたすべての方々に対し、心から哀悼の意を捧げる。

そして、戦争がもたらした惨劇と非人間性を強く心に刻み、平和と不戦の誓いを新たにする。

国土面積のわずか 0.6%に過ぎない沖縄に、在日米軍基地・施設の実に約 70%が集中している。米軍基地があるがゆえに起こる事件・事故などにより、住民は生命・人権・財産が脅かされ続けている。

また、昨年 12 月に閣議決定された「安全保障関連 3 文書」では、沖縄を含む南西地域の防衛体制強化がうたわれた。政府から国民に対する十分な説明と合意形成がないまま進められたことに加え、4 月に宮古島周辺で起きた自衛隊ヘリの痛ましい事故も相まって、地域住民の不安の声はより一層高まっている。

これらは、沖縄だけの問題ではなく日本全体の問題であるとの認識が必要であり、私たちが安心・安全に暮らし、働く上で見過ごすことができない課題である。

私たち連合は、日本政府に対し、「在日米軍基地の整理・縮小」と「日米地位協定の抜本的見直し」に加え、外交努力による近隣諸国との緊張緩和や地域における不安の払拭を強く求めていく。

「2023 平和行動 in 沖縄」に結集した私たちは、「沖縄戦の悲劇を二度と繰り返さない」「沖縄が直面する問題の実相を学び、その解決に取り組んでいく」「世界の恒久平和の実現をめざす」、このことを皆で確認し合い、今後も粘り強く運動を進めていくことをここに誓う。

2023 年 6 月 23 日
連合 2023 平和オキナワ集会